

2011 年度「対照言語学若手の会」シンポジウム：格の対照

日時：2012 年 1 月 28 日土曜日

場所：麗澤大学柏キャンパス，プラザ棟 102 教室

〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1 麗澤大学生涯教育プラザ

<http://rock.reitaku-u.ac.jp/link/traffic.html>

当日の予定：

10 時開始，自己紹介や挨拶

10:10-10:50 発表 1：野瀬昌彦（麗澤大）：格の多い言語と格を持たない言語の対照：ハンガリー語の格とトクピシンの前置詞 long

10:50-11:30 発表 2：佐々木冠（札幌学院大）：水海道方言：斜格主語専用の格がある言語体系

11:30-12:10 発表 3：笹原健（麗澤大）：上ソルブ語における格の配列—ドイツ語との対照—

12:10-13:30 お昼休み

13:30-14:10 発表 4：河内一博（防衛大）：有標主格言語であると記述されている言語では本当に主格が有標か？ Kupsapiny 語（ウガンダ、ナイル）と Sidaama (Sidamo) 語（エチオピア、クシ）の場合

14:10-14:50 発表 5：永井忠孝（青山学院大）：イヌピアック語の格組織と構文

14:50-15:20 コーヒーブレイク

15:20-16:00 発表 6：児島康宏（東京外大）：南カフカス語族における名詞句の等位接続と格接尾辞

16:00-16:40 発表 7：梅谷博之（東大）：格接尾辞とその他の種類の形態素との区分：モンゴル語における事例

16:50-17:10 閉会

18:00 懇親会

発表 1：野瀬昌彦（麗澤大）：格の多い言語と格を持たない言語の対照：ハンガリー語の格とトクピシンの前置詞 long

ハンガリー語は基本格として 18 格あるとされ、その 18 格に加えて通常は派生接尾辞とみなされる周辺の格が 10 近くある、格体系が豊富な言語のひとつである。他方、トクピシンは格を持たず、多くの機能を担う前置詞形"long X"を持つ。本研究では、ハンガリー語の格を、文法関係を表す文法格、場所関係を表す場所格、そしてその他の格に分類し、トクピシンのテキストでどのような文法形式で表されているかを調査した。パラレルテキストである新約聖書を使用し、ハンガリー語の格標示とトクピシンの前置詞"long"が指し示す意味範囲を明らかにする。

発表 2：佐々木冠（札幌学院大）：水海道方言：斜格主語専用の格がある言語体系

斜格主語は多くの言語で間接目的語と同じ格で表されますが、水海道方言では「名詞句+がに」という斜格主語専用の格で表されます。斜格主語専用の格がある言語体系はごく少数ですが他にも存在します。コーカサスで話されているアンディ語やゴドベリ語です。斜格主語は、多くの文法理論で独立した文法関係として想定されていません。斜格主語専用の格のある言語体系はこうした文法理論の普遍性に疑問を投げかけるものです。当日は具体的なデータを示しながら、こうした問題についても話したいと思います。

発表 3：笹原健（麗澤大）：上ソルブ語における格の配列—ドイツ語との対照—

ドイツ東部で話されている上ソルブ語（インド・ヨーロッパ語族スラブ語派）は、7 つの格（主格、属格、与格、対格、具格、位格、呼格）を持っている。語順は好まれるものがあるものの、文法的には定められていない。本発表では、若者母語話者の話しことば資料をもとに、文中でどの格形がどの位置に現れやすいのかを明らかにし、その背後にはたらいっている原理をさぐる。そして、上ソルブ語母語話者のもうひとつの母語であるドイツ語の語順を適宜参照しつつ、現在の上ソルブ語の姿を記述する。

発表 4：河内一博（防衛大）：有標主格言語であると記述されている言語では本当に主格が有標か？ Kupsapiny 語（ウガンダ、ナイル）と Sidaama (Sidamo) 語（エチオピア、クシ）の場合

東アフリカの言語のいくつか（特に、クシ、オモ、ナイルなど）は有標主格言語（marked-nominative languages）であると記述されている（例：Tucker & Bryan 1966, König 2006, 2008）。本発表では、Kupsapiny 語（ウガンダ、ナイル）と Sidaama (Sidamo) 語（エチオピア、クシ）の格の形態的標示を記述し、Kupsapiny 語は有標主格言語であるが、Sidaama 語は有標主格言語とは言い難いことを示す。Kupsapiny 語では（普通名詞に関しては）、対格-斜格が引用形と同じ形式を取るのに対し、主格は引用形とは違った音調で標示されている。Sidaama 語では（修飾語も所有人称接尾辞を伴わない名詞に関しては）、主格の男性名詞は接尾辞で標示されているが、主格の女性名詞は対格-斜格の名詞と同様、接尾辞の標示がない。また、（修飾語を伴わない名詞に関しては）対格-斜格の名詞は超分節接辞（最後の母音のセグメントに起こる高いピッチ）による標示があるのに対し、主格の名詞は引用形と同じピッチのパターンを取る。

発表 5：永井忠孝（青山学院大）：イヌピアック語の格組織と構文

本発表ではエスキモー語に属するイヌピアック語の格組織を、主に使役・適用や逆受動などの各構文との関連から概観する。イヌピアック語は主に能格型の格体系を有する。能格は属格の機能も兼ねる。能格言語であるために、逆受動構文がよく用いられる。逆受動構文で格下げされた被動者が取る格は、動詞の意味によっていくつかの可能性がある。使役構文や適用構文がさらに逆受動化することもあり、そのような構文で格下げされた被使役者や被動者が取る格は、もとの構文の項の数や使役の種類などによって決まる。

発表6：児島康宏（東京外大）：南カフカス語族における名詞句の等位接続と格接尾辞

グルジア語では、複数の名詞句が等位接続された際、それぞれの名詞句が格接尾辞をとらねばならない。それに対し、グルジア語と近い系統関係にあるメグレ語およびラズ語では、グルジア語と同様の形式も用いられるが、そのほかに、最後の名詞句のみが格接尾辞をとる構造も可能である。後者の場合、格接尾辞は形態的に最後の名詞句の主名詞の一部でありながら、機能的には複数の名詞句に対して働くことになる。本発表ではこのような形態論的な観点からの問題と、メグレ語やラズ語がこのような構造を発達させた背景について、その他の言語の事例と対照させながら考察する

発表7：梅谷博之（東大）：格接尾辞とその他の種類の形態素との区分：モンゴル語における事例

本発表では初めに、モンゴル語学において「格接尾辞」として扱われたことのある諸形態素の特徴を概観する。その後、モンゴル語の格接尾辞を、その他の種類の形態素（派生接尾辞や後置詞）からどのように区別することができるかについて検討する。